

安井益男から安井泰逸郎と藤本廉一宛ての手紙、1907年12月12日

Modern Japanese Translation

Pages 1, 2 and 3 of 7

ID: Coll949_B001F01_001_jpn

ご承知の通り、目下、全米を通じて金融界は大恐慌を来たしており、起業熱は一時ことごとく中止消失しております。このため、当ポートランド市でも多くの大工事は殆んど全て廃止になっている有様で、数万人もの労働者が失業している状況です。日本人も千人以上も宿屋でゴロゴロしているような始末です。加えて、近来新たな日本人渡米者が非常に多くなっており、このため、若者は仕事を得ることが殆んど絶望的に不可能になっております。また、当市を中心とする諸鉄道でも目下多くの若者を解雇しており、その上給金も下落し1ドル45セントは1ドル10セントに、1ドル30セントは95セントになっております。

このような有様で、白人の間のみならず、日本人の間でも不景気の状況は殆んど目も当てられない程です。これ程にまで不景気になっているにも拘らず、日本人の宿屋組合は無法にも宿賃の値上を実行し、元来10セントのものを25セントにしました。そればかりか食事は一食10セントであったものを15セントに値上げしたため、労働者は収入が減るばかりでなく、消費支出が従前より倍加し、大いに困窮している状況です。実に下町の日本人旅人向けの宿泊施設は宿泊者でいっぱいになり、前述の有様ですが、普通の一食をとることさえ叶わず、ただパン1本に水を飲むだけで一日を過ごす者が殆んど全てと言ってもよい程で、その惨状たるや目も当てられない有様です。

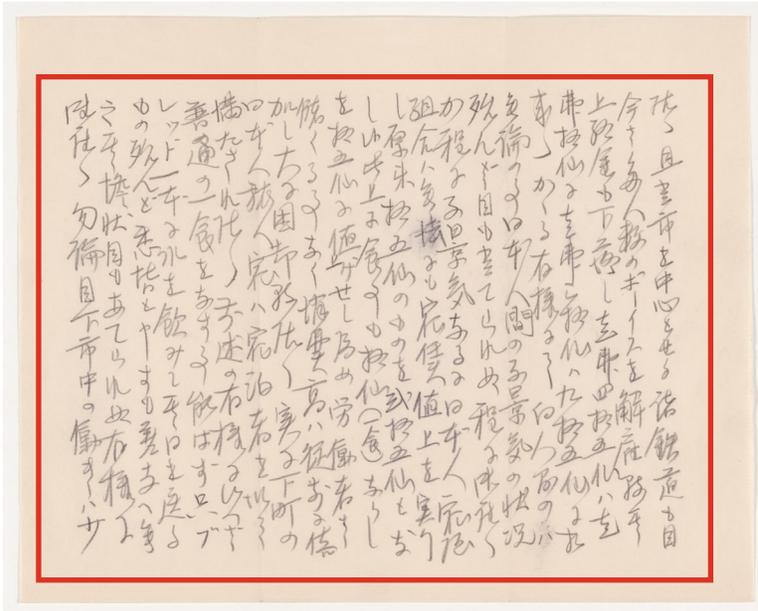
勿論目下市中の働き口は少しもない状態です。白人でさえただ食事と部屋のみで済ませ、飲み物までは手が出せない様な状況です。目下、白人の乞食さえ現れる始末です。ホールドアップ (hold up!) は毎夜街道にて行われ、多い時は一夜に数回、少なくとも1回はあり、突発的に殺人を犯す者さえ現れています。実に殺風景極まる現状です。

ある白人の申すところによれば、ここまでの不景気はクリーヴランド大統領時代に1回と、はるかさかのぼり南北戦争当時のほかにはないとまで申しております。この言葉で如何に現今の状況を察するに余

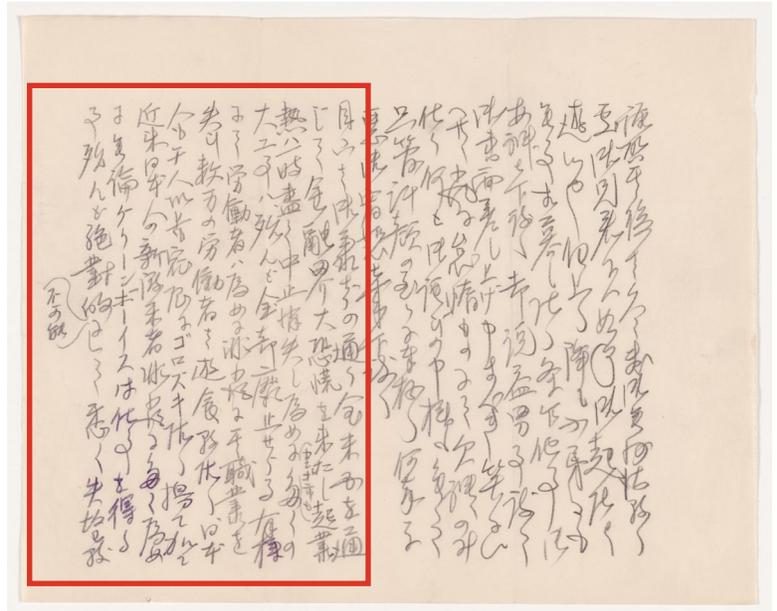


りあるかがお分かりと思います。このような不景気極まる時にはとにかく盗人も増えますが、本当に気の毒に思えるのは浅はかな考え方やそれを実行に移す愚かさにはかならないと思います。

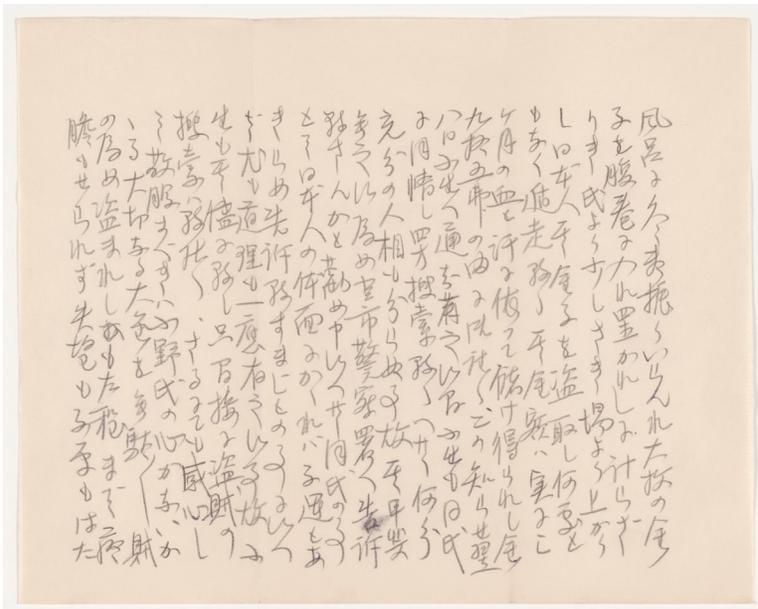
原文中の赤枠で囲まれている部分のみが翻訳されている。



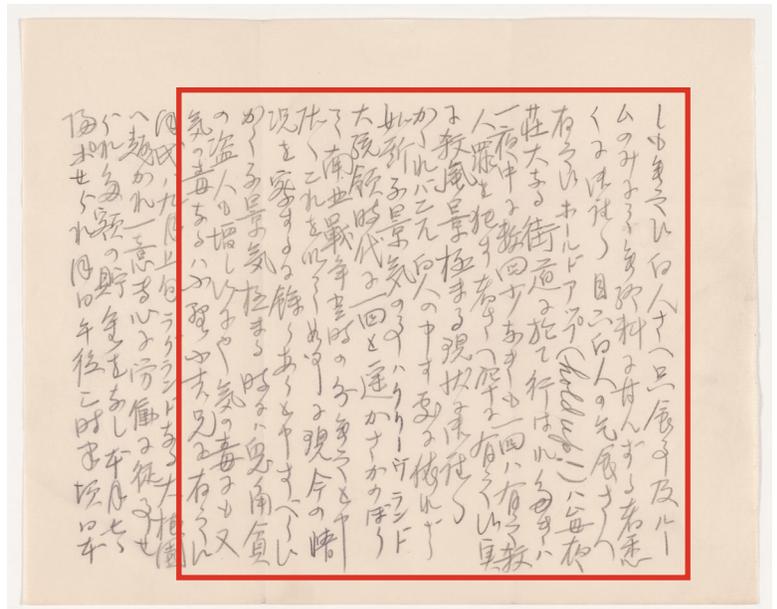
ページ 2



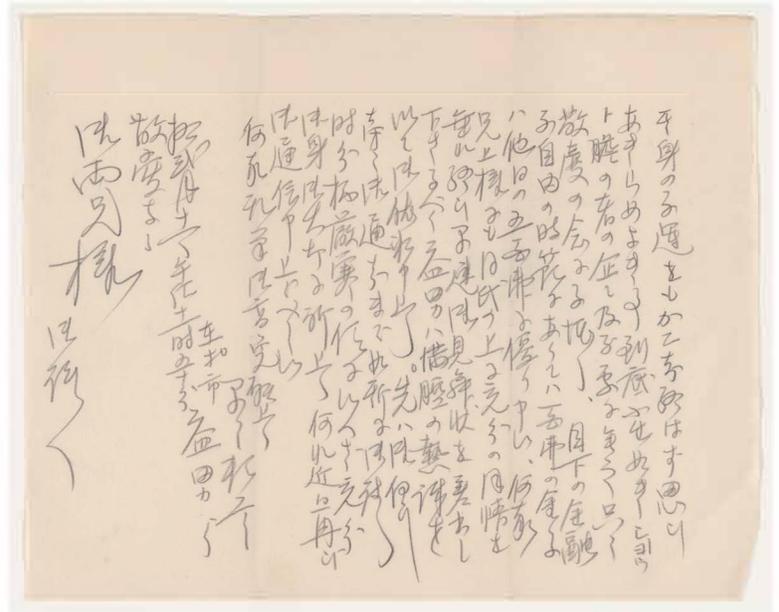
ページ 1



ページ 4



ページ 3



ページ 5

